当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究に関するご質問等がありましたら、下記当院の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象となる方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合にはご連絡いただければ研究対象としません。

記

研究機関名	地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター
整理番号	24-486
研究の名称	入院下で強オピオイド鎮痛薬が導入された患者における抗コリンスコアと有害事象、服薬状況についての後方視的評価
総研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2025年 7月 31日
試料・情報の利用を開始する予定日	2025年 3月 18日
研究の対象	2023年4月から2023年9月に入院中に強オピオイド鎮痛薬※が開始となった患者さん ※強オピオイド鎮痛薬：フェンタニル モルヒネ オキシコドン タペンタドール ヒドロモルフォン メサドン
研究の目的	多剤服用を含むポリファーマシーでは副作用のリスク増加、服用過誤等が問題視され、医薬品の適正使用に向けた対策が求められています。汎用されている薬剤のうち多数で抗コリン作用を有しており、惹起される有害事象も鑑みた薬剤調整が行われてきました。 従来、抗コリン作用の副作用リスクについては個々の薬剤において評価されてきましたが、2024年5月に日本老年薬学会より日本版抗コリン薬リスクスケールが公開され、抗コリン作用のリスクの強さに応じてスコア化、薬物療法全体におけるリスクを数値として把握できるようになりました。 抗コリン作用を持つ強オピオイド鎮痛薬※が当院入院中に開始となった患者さんで、抗コリンスコアの変化やその他薬剤を含む内服状況の変化について調査するのが、今回の研究の目的です。
研究の方法	対象期間に入院下で、強オピオイド鎮痛薬が開始となった患者さんの内服薬や検査値、副作用等を入院中のカルテから調査し、抗コリンスコアの変化と内服状況について検討を行います。
研究に用いる試料・	試料：なし

情報の種類	<p>情報：電子カルテに記載のある診療記録・検査データ・病歴・治療歴 使用薬剤・副作用の発生状況 等</p>
個人情報の取扱い	<p>患者さんを直接特定できる氏名や住所等の個人情報は、利用する情報から削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
お問い合わせ先	<p><当院の連絡先> 地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 所属：薬剤科 研究責任者：塩田 真帆 住所：大阪府堺市西区家原寺町1丁1番1号 TEL：072-272-1199(代表)</p>

作成日：西暦 2025年 1月 24日 (1版)